

エコー検査で肉質確認



県内の和牛生産者や福岡県、JAなどの関係機関・団体でつくる、第11回全国和牛能力共進会福岡県出品実行委員会は6月26日、エコー（超音波）検査による肉質診断を行いました。9月に宮城県で開かれる全国和牛能力共進会（宮城全共）の県代表牛の選考に向けて行われたものです。福岡県は、今大会初めて全共に参加します。

エコー検査には、和牛生産者や関係者らが立ち会い、牛に装置をあて、肉質の状態を確認。動画像を撮影し、他牛データと比べ、検討に用います。

全共は和牛の能力と斉一性の向上を目指して、5年に1度開催される全国規模の共進会。「和牛のオリンピック」とも呼ばれ、39道府県から選抜した和牛約500頭が集まり、改良の成果や肉質の良さを競い合います。福岡県は効率的な肉牛生産を目指し、和牛の肉用牛としての能力の追及と、肥育技術の研鑽を目的とした第9区（去勢肥育牛）に出品します。

生産農家は、「全共で『博多和牛』を全国の消費者に覚えてもらえるよう、県内和牛生産農家が丸一丸となって取り組みたい。」と話していました。

スイカを空中栽培 限られたスペース活かす



那珂川町中原の井上茂敏さんは、直売所ゆめ畑那珂川店へ年間を通じて野菜を出荷しています。現在、1.5aの圃場でスイカ40本のつるをトンネル状に這わせ、実がぶら下がった状態で育てる「空中栽培」を行っています。マンションや住宅が立ち並ぶ住宅街にある圃場で限られたスペースを効率的に活用した都市型農業らしい工夫です。

品種は小玉スイカの「マダーボール」。着花日ごとに色分けしたネットをかけ、収穫の目印にしています。空中栽培を始めたきっかけは鳥対策。カラス避けの為にネット掛けをしたところ、つるがネットに沿って伸び、トンネル状になったため、試験的に栽培を始めました。

井上さんは「狭い面積を活かし、鳥対策もできる。美味しいスイカを直売所へ出荷したい」と笑顔で話しました。

福岡県学校農業クラブ連盟年次大会 代表選出



福岡県学校農業クラブ連盟は、春日市のクローバープラザで、第68回福岡県学校農業クラブ連盟年次大会を開きました。9校43課題の発表があり、福岡県連盟の代表として九州大会に出場する最優秀賞6課題を選びました。

大会では、農高生が仲間同士で協力して行った実験や、調査研究活動等を発表。審査結果を競い、優秀賞を受賞した発表は上位大会へ進みます。中でも「農業の甲子園」と言われる全国大会へ出場するため、生徒は活動の集大成を競います。

プロジェクト発表の最優秀賞は、Ⅰ類が糸島農業高校、Ⅱ類が朝倉光陽高校、Ⅲ類が糸島農業高校。意見発表の最優秀賞は、Ⅰ類が行橋高校、Ⅱ類が八女農業高校、Ⅲ類が八女農業高校を選びました。受賞した生徒の中には嬉しさのあまり、涙を見せる生徒もいました。

それぞれの部門で最優秀賞に輝いた発表は8月に大分県で開かれる九州大会に出場します。

仲良く寄り添う双子キュウリ



珍しい形のキュウリが向佐野支店の窓口に飾られ、来店客の目を楽しませました。

支店管内の庄山勝明さんの圃場（ほじょう）で収穫されたものです。珍しい野菜が採れたので支店に持ち込みました。長さ30cmの2本のキュウリがピッタリとくっつき、1本になっている姿は、まるで双子のようです。

キュウリを見た支店職員は「隙間が無いほどの2本の仲良しさを見て、思わず笑顔になりました」と話しました。

伝統行事で豊作を祈願



太宰府天満宮は6月10日、太宰府市観世音寺で「斎田御田植祭」を行いました。稲穂が荒天や害虫などの被害に遭わず、無事に収穫されるよう祈願する毎年恒例の神事です。

斎田横に設けた斎場での祭典の後、色鮮やかな衣装を身にまとった、天満宮の巫女が「早乙女の舞」を奉納しました。もんぺ姿の巫女や氏子などが斎田に入り、5月1日に「斎田播種祭」でまかれた種籾から育った苗を丁寧に手植えました。